

「初期生育の確保」に向け、「健苗育成」と「土づくり」で米づくりスタート！

◎ 播種作業

- 田植日から逆算し計画的に播種を行いましょ。移植適期は5月15～20日です。
- 田植えの遅れは初期生育の遅れの要因に、老化苗は活着不良の要因になります。

☆作業時期の目安【田植えを5月20日にする場合】

田植え日から逆算して
計画的に！

苗の種類	乾籾重 (g/箱)	水漬開始日	催芽日	播種日	育苗期間	葉数 5/20
稚苗	150～180g	4月12日	4月24日	4月25日	20～25日	2.5枚
中苗	80～120g	4月2日	4月14日	4月15日	30～35日	3.5枚

◎ 育苗期間の温度・水管理

- ハウス内および苗床（被覆資材下）の両方に温度計を設置し、温度確認をこまめに行いましょう。

苗床も
温度を確認！



【低温対策】

- ・保温性の高い資材で温度を確保しましょう。低温時に遮光性の高い資材を使用する場合は苗床の地温が上がらず、出芽に時間を要する場合がありますので注意が必要です。

【高温対策】 ～ハウス内の気温が40℃を超えるとわずか30分でヤケることがあります～

- ・晴天時は高温障害が発生しやすいので特に注意が必要です。
温度が上がる前に早めにハウスを開放する、遮光資材を使う等の対策を取りましょう。
- ・保温マットを使用した場合、気温が高い日は苗床の温度が急激に上昇することがあるため、早めに換気、保温マットを除去する等の対策が必要です。

【育苗期間の温度管理】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることがカギ。きめこまやかな管理を行う。
緑化期 (出芽後2～3日)	25℃	15℃	○外気温が25℃以上の日は苗ヤケに要注意！早めにハウスを開ける。
緑化期以降	20～25℃	8℃以上	○低温時には保温に努める。 ○霜が予想される場合は早めにハウスを閉める。

- かん水は午前中に1回が基本です。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では1.5葉期からハウスを開放し、入水します（床土の高さ）。2葉期以降は常時湛水とします（箱の上1cm程度の水深、最大でも草丈の半分以下）。
- プール育苗は苗が伸びやすいので、夜間が5℃以上の場合は、昼夜ともハウスを開放しハウス内気温を低めに管理します。（低温・降霜が予想される場合はハウスを閉めます。）

◎ 育苗期間中の病害対策

- 出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。
カビが発生したり、苗の生育異常がみられたりした場合には早めにご相談ください。

【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状	発生条件	発生抑制のポイント
フザリウム	白色～淡紅色のカビ	緑化期の 低温、湿度の 変動が大きい 時	○低温をさけ、適切な温度 を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない。 出芽後の芽、根の枯死、ムレ苗		
リゾプス	種子、芽の周辺に白いカビ、 根の褐変、葉の黄化	出芽時の 高温多湿	○33℃以上の高温、多湿に しない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化、 枯死、坪枯れ	高温、多湿	○高温、多湿にしない ○発生した場合は苗を処分

◎ 土づくり肥料を積極投入

- 天候不順な中、安定的に米の品質・収量を確保するためには、「土づくり」は必須技術です。
特に、**ケイ酸資材**は①**根の活力維持**、②**登熟能力の向上**、③**いもち病抵抗性向上**の効果が期待できます。土壌pHの改善にも有効です。積極的に施用しましょう。

【施用の目安】ケイカル 120 kg/10a

- 土壌からの養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のため、**耕土深 15cm** を目標に耕起を行いましょう。

◎ 品種に応じた基肥量の目安

- 基肥は下表を目安にし、良食味米の生産に努めましょう。

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 (kg/10a)	5～6	3～4	4～5	3～4	4～5	5～6

◎ 堆肥の過剰施用は食味にマイナス

- 堆肥は、家畜の種類や原料により成分が異なるので、特徴を把握して施用しましょう。
堆肥を施用した場合には、必ず基肥を減肥しましょう。

農作業事故をなくしましょう！

～久々のトラクター、焦らず、準備万端に、気を引き締めて～

春作業はトラクター等の機械作業が多くなります。作業前には、機械の点検、危険箇所
のチェック等を行い、農作業事故ゼロを達成しましょう。